

せとまちトーク進捗管理シート

本地 連区

テーマ

買い物難民の解消

課題・問題点の背景・理由

- ・老人世帯の増加、免許証の返還
- ・高齢化, 核家族
- ・買い物に行く交通手段がない
- ・スーパーが遠い
- ・高齢化による運転免許返上により店が遠くなった

解決手法

【行政】

【地域】

【その他】

・デマンドタクシー(バス)の配備

- ・地域の実態を調査して、業者に働き掛ける
- ・地域力の課題として解決に取り組む

関係する常任委員会

都市活力委員会

せとまちトーク後の経過、及び調査検討結果

交通空白地に対する一つの方策として「住民バス」がある。実行に移すには市との協議が必要である。

高齢化、免許返納、コミュニティバスのルート問題、買い物支援などの問題解決策として(公共交通空白地有償運送、福祉有償運送)などがある。菱野団地「住民バス」はその事例である。

その条件は以下の通り

- ・輸送サービスを行う場合の条件=NPO法人、非営利の法人格(自治体、町内会)
- ・車両の費用=市から車両の購入費、車検等の法定費用、任意保険について補助を受ける
- ・道路交通法上の手続き
 - ①地域における関係者の合意(法定協議会又は地域公共交通会議又は運営会議)かつ
 - ②道路運送法に基づく登録(地域を管轄する運輸支局等)
- ・運転者=第二種免許又は大臣認定講習を受けた者
- ・運転者への支払い=運転者(ボランティアを含む)への人件費や報酬の支払いも可
- ・輸送の対価=利用者は、所定の対価を支払う、対価は一定の制限あり(非営利と認められる実費の範囲以内である事が求められる)
- ・助成=市から補助や支援を受けるに当たり制約はない

デマンド交通について市の考えを質したところ「平成29年に下半田川で実証実験を行ったが、良い結果が得られなかったため、現在デマンド交通について詳細を分析して今後について検討中である。」との回答であった。

【補足】

菱野団地「住民バス」の成り立ちまでには団地内に多様な要望があり合意形成に困難があった。現所把握、アンケート調査、サービス水準の検討、運行主体の選択、運行計画に対しての運輸局、警察等との協議、運行協議会による住民説明会などを行い、住民が自ら短期・長期で取り組むことの優先順位を決定。

住民バスの成功と相乗効果

9人乗りの車両で平均8人前後と極めて高い乗車率、通勤通学の移動より、商店街の活性化や住民同士の交流に対する満足度

運送対価のポイント=今後も無償で運行、自治会総会を経て、乗車しない人も支出